

Our Friend Tone River

羽生市立村君小学校6年

落合翔龍 川田優衣

茨井新加 豊嶋葵

萩原楓

～大好き！利根川～

利根川のほとりにある村君小学校の生活は、1年を通して利根川と深い関わりがあります。利根川はいつも私たちの心と体の成長をやさしく見守ってくれています。

なかよしハイキング

毎年春に全校児童が利根川のサイクリングロードを歩いて、スカイスポーツ公園へハイキングに出かけます。サイクリングロードは車が通ることにはないので、安心して歩くことができます。河川敷にはたんぽぽの花がさき、その向こうには利根川の川面がキラキラとまぶしく光っています。利根川を吹く春の風を感じながら、歩く私たちと一緒に川はゆったりと流れます。



きれいな利根川を見ると、心が落ち着きます。

ボート体験

4,5年生が、学校近くの河川敷から加須市まで、ボートに乗って利根川を下ります。

みんなで、心を一つにオールをこいで約10kmの距離を1時間以上かけて進みます。運がよければハクレンのジャンプに出会うことができます。利根川に育まれた生命のすばらしさを身近に感じることができるすばらしい時間です。

ボートから見る利根川の景色は一味違っていてとてもきれいでした。

浅いところは、何度も打ち上げられてしまっただけで、力を合わせてこぐと、とても速く進みました。

校内持久走大会

11月の末に利根川のサイクリングロードで校内持久走大会が行われます。毎年この時期になると河川敷の方々が私たちのためにコースの周りの草をきれいにしてくれます。見通しがよくなるのでとても助かります。この頃の川原は冷たい風が吹く日も多いです。風が強い日は向かい風に負けて走ると息を招くのも苦しくなかなかに進めません。利根川はほくたちに自然のすばらしさを教えてくれると同時にほくたちの心と体を強くたくましくしてくれます。

がんばれファイト!! 1位で新記録をだすぞ!!

サケの放流

冬休みの前から家や学校で卵から育てたサケの稚魚を利根川に放流します。

また2~3cmの大きさしかない小さな稚魚たちをカップから放すと、みんな元気いっぱい泳ぎ出します。いつか稚魚たちが大きくなったら、元気にこの利根川に帰ってきてもらいたいです。

みんな元気に泳ぎ出しました。

いつも大きくなって帰ってくる利根川へ帰ってきてね。

いちめんの菜の花

私たち6年生は、山村暮鳥の詩「風景純銀さいく」を学習しました。この詩では「いちめんのなのはな」という言葉が何度もくり返されています。春になると、利根川の土手にはたくさんさんの菜の花が咲いて、切り、いちめんが菜の花畑になります。ほくたちは、国語の時間に土手まで歩いて行って、「いちめんのなのはな」の風景を実際に見て体験しました。見渡すかきりの黄色い菜の花が、とてもきれいでした。こんなことができるのも利根川のほとりにある学校ならではの思い出です。



おいしいお米の源

私たちの住む村君地区にはたくさんさんの田んぼがあり、みんなその田んぼでとれたお米を食べています。村君地区でとれるお米はとてもおいしいです。村君地区の米づくりには利根川から引いた水が利用されています。私たちが毎日おいしいご飯を食べられるのも利根川の豊かな水のおかげなのです。



編集後記

私たちと利根川との関わりについてふり返ってみると、私たちのくらしは、学校生活はもちろん、日常のくらしそのものが利根川によって支えられているということを改めて感じました。この地域にくらす私たちにとって利根川の存在は欠かせないことができません。利根川の恵みに感謝し、私たちの利根川を大切にしていきたいと思っています。

Dear. Tone River

落合翔龍 川田優衣 茨井新加 豊嶋葵 萩原楓